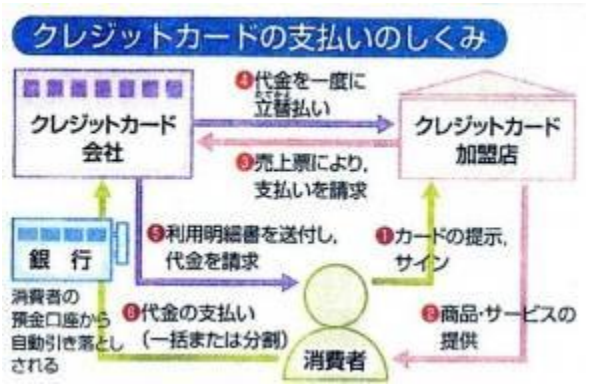
５　指導の実際と手だての考察

「自らの考えを表現する言語活動の充実」＜手だて１＞＜手だて２＞、「考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場の設定」＜手だて３＞について

○　主眼

クレジットカードの支払いの仕組み、利点や問題点について話し合ったり、「クレジットカードの使用を人に薦めるとき、どのような取扱説明をするか」という課題について自分の考えを取扱説明書に整理し説明したりする活動を通して、将来の消費の主体（消費者）として、無理のない消費生活を営むための考えを利点と問題点から深めることができるようにする。

○　本時の展開

	学習活動・内容 ☆自らの考えを表現する言語活動	○指導上の留意点＜自らの考えを表現する具体的な手だて＞ ★考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場 ◇主眼についての評価
導入	1　グラフ「クレジットカードの発行枚数と取扱高の推移」を基に、クレジットカードの取扱状況について知り、本時のめあてを設定する。 ＜グラフから分かったこと＞ ・　発行件数と取扱高が全体的に増加している。 ・　発行件数 3.2 億枚（2008 年） ・　取扱高約 35 兆円（2008 年） ・　大人一人当たり３枚以上保有している。	○　クレジットカードによる支払いへの興味・関心を高めるために、クレジットカードの発行枚数や取扱高の推移について調べる。 **【クレジットカードの発行枚数と取扱高の推移】** ○　クレジットカードの発行枚数や取扱高の増加の様子を基に、本当に便利なカードなのか、どんな仕組みなのかと問いかけ、自分たちがよく説明できないことに気付かせ、本時のめあてを設定するようにする。
	〔めあて〕 クレジットカードは、本当に便利なカードなのだろうか。	
展開	2　クレジットカード払いの仕組みについて、仕組み図を基に調べる。 ＜仕組み図から分かること＞ ・　カード会社は、加盟店の売り上げの数%の手数料や年会費を受け取る。また、消費者が分割払いをしたときの利息が入る。 ・　消費者は、一括、分割、リボルビング払いを選択できる。利息や年会費を払う。 ・　加盟店は、クレジットカード会社から一度に立替をしてもらえる。取り立てはカード会社が受け持つ。 3　クレジットカード払いの利点と問題点について話し合う。 **☆　クレジットカード払いの利点と問題点について個人の考えをまとめ、それを基にグループや学級全体で話し合う活動**	○　仕組み図を基に、「消費者」「カード加盟店」「クレジットカード会社」の三者の働きや相互関係が具体的に調べられるようにする。また、消費者は、カードを使用すると様々な支払い方法を選択できることにも気付かせるようにする。 ○　クレジットとは、「すべて利用者の信用に基づく借金である」ということ、また、「買った当時はカード会社が立て替えているけれど、後で自分が払いますという契約であること」に触れるようにする。 ○　教師が「一括払い」「分割払い」「リボルビング払い」の補足説明を行う。  **【クレジットカードの支払いの仕組み】**

＜クレジットカード払いの仕組みや意味について利点と問題点の両面から考え、話し合う活動＞

○　「消費者」の立場に立って利点と問題点について考えさせるようにする。考える際には、「仕組み図」や生活の中で見聞きしたことを基に考えるようにする。

○　ここでの言語活動は、①から③の学習形態で行う。

①　個人で考える。

②　グループで話し合う。

【Ａグループの話合いの様子】

Ｃ１「現金がなくても後払いで買い物ができるところが利点だね」
Ｃ２「しかも、支払い方法を自分で設定して、月々の支払額の計画ができたり、ボーナス払いを見越して支払いできたり自分の思うとおりに支払いができるものね」
Ｃ３「そうなの」
Ｃ２「でも、支払い回数が多くなると利息が大きくなったり、カードは年会費がかかったりして、現金払いより余計なお金がかかるよ」
Ｃ４「それに、無計画に買い物をして、お金を使いすぎる可能性もあるよ」
Ｃ２「それは支払いの仕組み図の中にも出てきたね」
Ｃ３「利息や年会費は、カード会社によってちがうのかな」
Ｃ４「そうだよ。テレビで見たけれど、カードの暗証番号を知られると勝手に使われることがあるそうだよ」
Ｃ３「どんな時に暗証番号が他の人に知られるの」
Ｃ２「ＡＴＭを使うときに、暗証番号を覗き見られるって聞いたことがあるよ」
Ｃ１「こわいね。暗証番号を入力するとき、周りに気を付けていないといけないね」

③　全体で話し合う。

○　個人でクレジットカードの利点と問題点について考え、その後、少人数のグループで、そして、全体でというように学習形態を変えて話合いをもつことで、利点と問題点について自分の考えが広がるようにする。

○　他者の意見を聞く際は、メモを取りながら意見交換する。その際、他者の意見で「なるほど」と思うものがあれば自分の考えを書いたワークシートに書き加えたり、自らの考えを修正したいような意見があれば赤ペンで修正したりして、考えの広がりが見取れるようにする。

○　自分やグループで考えた利点と問題点が明確に表現できるように、個人で考える場面から、利点と問題点について対比して書き込みができる表が載ったワークシートを準備する。グループには、それを拡大したものを与えるようにする。

○　自己破産の内容を理解し、問題点を考える。自己破産の意味、件数の変化や生活への影響について正しく知らないと思われるので全体で「自己破産の件数」と「クレジットカードの発行枚数と取扱高の推移」のグラフを見比べ、発行枚数や取扱高にともなって自己破産件数も増えていることに気付かせるようにする。

展開

4　「クレジットカードの使用を人に薦めるとき、どのように取扱説明をするか」という課題について、説明の仕方を考え、取扱説明書を作成する。

☆　クレジットカードの利点と問題点を基に、取扱説明書を作成する活動

＜利点と問題点を具体的に取り入れながら、無理のない消費生活を営むための取扱説明書を作成する活動＞
○　ワークシートに載せた取扱説明書のコーナーには、次のようなルールに従って、自分の考えを記入させるようにする。
①　書き出しは「クレジットカードは、～できます」とし、本時で学習した利点の中から自分が重要視する点を１、２個選択して書く。
②　次に①で取り上げた点に沿って、問題点について記述する。
③　最後に、使用するときの留意点について書く。
○　このような条件に従って文章を作成させることにより、利点と問題点の両面から自分の消費生活の仕方を考え、説明できる生徒を育てることができると考える。
○　取扱説明書の解説を隣の友達に聞いてもらい、説得力があるかどうか評価してもらうようにする。

【取扱説明書の解説を友達に聞いてもらっている様子】

Ｃ１「取扱説明書を読むね。『クレジットカードは、買い物額が大きいときは持ち運びが楽になり、また、支払うときは分割払い、リボルビング払いができます。でも、使い過ぎたり、利息がついたりして払えなくなって自己破産することもあります。だから使用するときは、支払い方法をよく理解して、無理のない買い物をする必要があります。』何か訂正した方がいいところがあるかなあ」
Ｃ２「そうだね、『支払い方法をよく理解し』のところをもっと具体的に書いた方がいいと思うよ」
Ｃ１「分割の仕方で利息のかかり方が違うとかだね」

＜評価の観点＞
・　①利点②問題点③使用上の留意点が関連し合っているか。
・　③の留意点に無理のない消費生活を営むための自分の考えが言えているか。
○　説得力がないときは、聞いてもらった友達や先生からアドバイスをもらい、赤ペンで修正を加えるようにする。

終末

５　本時のまとめと振り返りをする。

〔まとめ〕
クレジットカードは、利点と問題点をもつカードである。使用するときは、その両面を考えながら、自分の家計に合った使い方をしなくてはならない。

◇　無理のない消費生活をするために、クレジットカードの利点と問題点の両面からクレジットカードの使用について考えることができている。
（発言分析、ワークシート分析）【思】

★　考える力の深まりを自覚する振り返り活動の場
○　事前のアンケートの回答の内容とクレジットカードの使用を薦めるときの説明の内容を比べさせ、自分の考えが深まったところをワークシートに書かせるようにする。また、なぜ深まったのかその理由についても記述させるようにする。
＜生徒に自覚してほしい考える力を深める有効な手だて＞
・　利点と問題点の両面からクレジットカードの意義や役割について考えたこと

前ページへ戻る